

九州大学工学部  
石橋 信彦

標記国際会議が、このたび3年後の1991年に熊本市で開催される運びになりました。Flow Analysis会議の討議の主体はフローインジェクション分析法であります。第1回は1979年アムステルダム市で開催され、つづいて3年毎にルンド（スウェーデン）、パーミンガム（英国）で、そして第4回が本年4月米国ラスベガスで開催されました。この会議での研究発表は半年後位にAnalytica Chimica Actaに一冊にまとめて公刊されております。

この会議をわが国に招待しようという動きはずいぶん早くからありました。わが国の研究者のこの動きは、有志の方々により機会あるごとに各国の研究者に伝えられて来ていました。特に私達のフローインジェクション研究会が発足してからは、世話人会で毎回のようにその実現のための方策が話し合われて来ました。そして世話人会としてはAnalytica Chimica Actaの編集長Dr.A.M.G Macdonald女史に、この日本の要望を欧米の研究者に伝えてもらい、日本での開催の実現に協力していただくようお願いして来ました。Macdonald女史からのレスポンスは、当初は大勢としては皆さん賛成であるが、円高で旅費がかさむ、ホテル代が高いなどの声も聞かれるとのことでした。又一方ではスペインやブラジルでの開催の声も聞かれる始末でした。しかし、日本のホテル事情、交通事情など説明し、さらに最近になって日本分析化学会の主催で1991年の夏（多分8月末）にInternational Congress on Analytical Sciences(ICAS)が東京近郊で開催されることになり、その前後に開催すればという提案に対して、おおむね賛同が得られる情勢になっていたようであります。世話人会では熊本市を開催候補地としましたが、これは適当な国際会議会場の確保、外国人参加者の観光宿泊、及び今後の準備のため事務局からの連絡の便などからであります。ご了承お願い致します。

このような訳で、ラスベガスでの第4回会議（Flow Analysis IV）に集まった人々の間では、私達の正式提案前に次回は日本で開催されるそうだとの話が広まっていたようでした。Flow Analysis IVの開会后、世話役のG.Pacey教授（オハイオ、マイアミ大学）が会議の最終日に次回の会議の提案のための時間を設けてくれました。そこで20分ばかり第5回の会議（Flow Analysis V）をICAS1991に引き続いて熊本市で行いたい旨、又熊本市への交通、ホテル、予定会場（熊本工業大学）などについて説明して、承認をいただき、併せて大いに参加を勧誘した次第です。

このようにしてFlow Analysis Vの日本での開催が了承されましたが、これは何と云ってもF I Aの研究がわが国で極めて活発であること、またそれがProf. Ruzicka, Prof.Hansen の著書などを通じて、世界中の研究者間に知られていたことによると思われまます。

開催まで、まだ3年ありますが、折角の国際会議です。さらにハード、ソフトの両面にわたって、わが国のFIA研究が大いに進展し、わが国での開催が有意義であったと世界的に評価されるようになりたいものです。

皆様の御指導と御支援をお願い申し上げますと共に、わが国での開催に向けてお骨折りいただいたMacdonald博士に感謝する次第です。